

26. 丸山城跡古墳

まるやまじょうしこふん

所在地：小浜市丸山

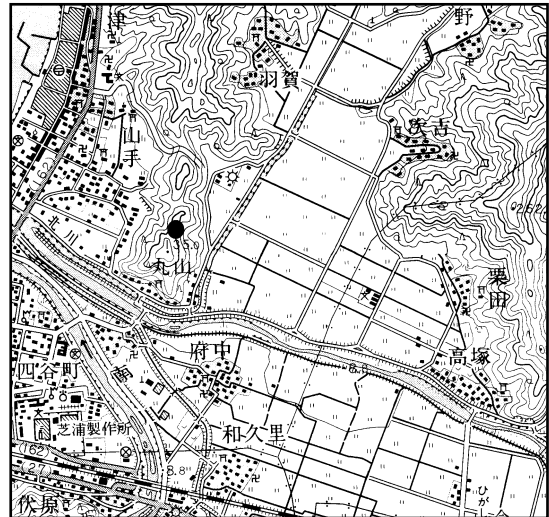
調査原因：内容確認

調査期間：平成 23 年 8 月 22 日～9 月 9 日

調査主体：花園大学・小浜市教育委員会

調査面積：約 25 ㎡

時代：5 世紀末～6 世紀初め



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 丸山城跡古墳は丸山の山上、標高 110m 付近に位置し、戦国時代に茶磨山城（丸山城）築城に伴い破壊を受けています。当該古墳の存在は以前から知られていましたが、平成 21 年度に文化庁の文化財総合的把握モデル事業による墳丘測量調査の結果、前方後円墳であることがわかりました。また、測量調査とあわせて前方部ですでに露出していた石室の実測作業も行いました。

今回の調査は前回の測量調査で確認できなかった外表施設と石室の細部の構造を把握することを目的に墳丘部分に 3 箇所の特レンチを、また、前方部の石室部分にも調査区を設定して実施しました。

遺構 墳丘部の調査区からは、後円部裾と東側くびれ部、前方部裾をそれぞれ検出しました。これにより、丸山城跡古墳は前方部を北に向けた全長 30m の古墳であることが、また、前方部の石室は玄室最大長 2.15m、奥壁幅 1.35m、墓道長 1.96m、墓道幅 0.54m であることがわかりました。

遺物 墳丘部の各調査区からは、朝顔形埴輪と円筒埴輪が出土しました。出土した埴輪は形態や調整方法、焼成などの特徴から 5 世紀末～6 世紀初め頃のものと思われ、出土状況から本来、墳頂部に巡っていたものが時間の経過とともに壊れ、落下したものと思われ。

なお、前方部の石室は盗掘が著しく、遺物は確認できませんでした。

まとめ 石室は、通路の部分が未発達で、玄室に向かって急激に下降するものであることがわかりました。このような石室は九州もしくは朝鮮半島の影響を受けたものと考えられ、石室の構造や本墳の立地から被葬者像は対外交渉を積極的に行っていた人物と考えられます。

なお、本墳のように後円部とともに前方部に横穴式石室をもつ古墳は、若狭地域では十善の森古墳に次いで 2 例目です。旧上中地域の広域首長墳に比べると、規模は小さいですが、前方後円墳の形態を採用していることから、本墳には広域首長を補佐した中規模首長が埋葬されていると考えられます。

(西島伸彦)



写真1 前方部石室

图1 丸山城跡古墳測量図

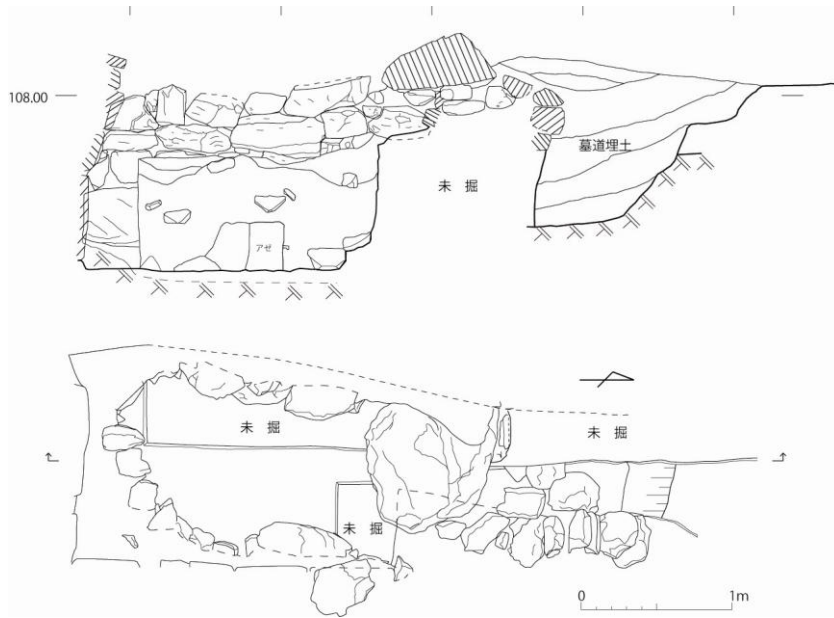


图2 前方部石室実測図